



<http://www.kinki-sha.org/>

近畿学校保健学会通信

No.150

平成30年6月5日発行
近畿学校保健学会事務局
〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1
関西福祉科学大学 大川研究室
TEL&FAX : 072-947-1307
Mail : kinkigakkohokengakkai@yahoo.co.jp
振込口座 00940-5-181826

目 次

第65回近畿学校保健学会のご案内	 2
学会新企画 第6回 研究を論文にまとめる	10
平成30年度近畿学校保健学会評議員会・総会 議題	15
平成29年度第3回幹事会議事録	15
関連学会開催日程	16
編集後記	16

会費納入と会員勧誘についてのお願い

平成30年度の会費の納入時期となりました。

平成30年度会費未納の方には、振込用紙を同封させていただきましたので、年会費（3,000円）をお振り込み下さいますようお願い申し上げます。2～3年分の会費未納の方にはその額を記載しています。

また、会員の皆様には、周囲の方々に本学会への入会をお勧め下さいますようお願い申し上げます。入会案内パンフレットおよび入会申し込み用紙は、ホームページからダウンロード出来ます。

ご 挨 拶

第 65 回近畿学校保健学会

学会長 小谷 裕実

(京都教育大学 発達障害学科)

この度、第 65 回近畿学校保健学会を京都教育大学において 6 月 30 日に開催させていただくこととなりました。皆様に一言ご挨拶申し上げます。

京都は、このところ大変な観光客で賑わっており、休日ともなると目にも鮮やかな色とりどりの着物に身を包んだ世界各国からの人々で街は華やいでおります。また、民泊の浸透のためか、どうしてここに？と首をかしげるような閑静な住宅街にも、右手にキャリーバック、左手にスマートフォンを抱えた外国の方々と遭遇する機会が増えてきました。

このように、多くの国の方々と日常接する機会が増えることは、子どもたちの意識に多少なりとも変化をもたらすのではないのでしょうか。小学校では英語教育も始まりました。平成 28 年には、障害者差別解消法も施行され、合理的配慮が求められることとなりました。これからの現代社会において「ダイバーシティー」つまり多様性、相違点を認め合い、互いを尊重することの大切さや、一人一人がかけがえのない存在であることを子どもたちに伝えることが重要になるかと思われまします。人種、国籍、性別、年齢の違い、病気や障害の有無に関わらず、人が人から大切にされることで、他者を尊ぶ思いが育つのではないかと、まずは子どもに関わる大人の意識を柔軟に広げたいとの思いで、今回のテーマを「学校で生命の尊さを考えよう伝えよう」といたしました。

教育講演は、京都府内の学校における「生命のがん教育」をテーマとして、京都府健康福祉部健康対策課のがん総合対策担当課より、これまでの 4 年間のお取り組みについてお話いただきます。シンポジウムは、『学校におけるセルフアドボカシーと合理的配慮を考える』をテーマとして、LGBT、病弱、発達障害のある 3 名の方々に、ご自身の経験された学校生活をふりかえって率直な思いを語っていただきます。学校において、特性のある生徒の気持ちに寄り添って、多様性をどのように受け止めるか、ご指導の一助としていただけるものと、とても楽しみにしております。また、ミニ勉強会として、京都大学形成外科講師の齊藤 晋先生より、生徒がケガをした時、キズ跡が出来るだけ残らないように治療するための方略についてもお話いただきます。

一般演題では 25 題の発表があり、日ごろ取り組まれている成果を聞かせていただけることを楽しみにしています。是非とも大勢の方にご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご後援（京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府歯科医師会、京都府薬剤師会、京都教育大学）、ご助成（京都府医師会、京都府歯科医師会、京都府立医科大学小児科学教室同門会耐久会）いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

第 65 回近畿学校保健学会プログラム

テーマ 学校で生命の尊さを考えよう伝えよう

日 時 平成30年6月30日（土）10：00～17：15

会 場 京都教育大学教育学部（藤森キャンパス）

（<http://www.kyokyo-u.ac.jp/access/access01/>でご確認ください。）

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1

時 刻	用 途	場 所
9:30～	受付開始	F 棟 1 階入口
10:00～11:48	一般演題発表 A 会場【F12 講義室】10:00～11:48（F 棟 1 階） B 会場【F22 講義室】10:00～11:24（F 棟 2 階） C 会場【F26 講義室】10:00～11:48（F 棟 2 階） ミニ勉強会【F16 講義室】11:50～12:20（F 棟 1 階） 『学校における子どものけがとその対処法』 講師：齊藤 晋先生（京都大学医学部附属病院 形成外科 講師）	F 棟 1 階・2 階 講義室
12:00～13:00	昼 食 弁当引換【F15 教室】 11:30～12:30	F 棟 1 階 F13, F14, F15 講義室
13:00～14:00	総会・評議員会	F 棟 2 階
14:00～15:15	教育講演 『学校における「生命のがん教育」－京都府の4年間 をふり返る－』 司会：井上文夫（京都教育大学体育学科） 講師：京都府健康福祉部 健康対策課 がん総合対策担当課	【大講義室】
15:15～15:30	休 憩	
15:30～17:00	シンポジウム 『学校におけるセルフアドボカシーと合理的配慮を考 える－LGBT，病弱，発達障害の当事者の語りを通して－』 司会：小谷裕実（京都教育大学発達障害学科） シンポジスト：3 名	F 棟 1 階 【F16 講義室】
17:00～17:15	表彰式・閉会式	
18:00～19:30	懇親会 会場：大学生協食堂	大学会館

（JR 藤森駅より徒歩約3分，京阪墨染駅より徒歩約7分）

プログラム（一般演題）

一般演題（発表8分，討論4分）10：00～11：48

A会場【F12講義室】

＜養育・支援＞ 10：00～10：36 座長 後和美朝（大阪国際大学）

A-1 感謝と養育に関わる要因との関連

○藤谷倫子¹⁾，小原久未子¹⁾，間瀬知紀²⁾，宮脇千恵美³⁾，桃井克将⁴⁾，甲田勝康⁵⁾
藤田裕規⁵⁾，中村晴信¹⁾

1)神戸大学大学院，2)京都女子大学，3)鹿児島大学，4)徳島文理大学，5)近畿大学

A-2 感謝と心理的要因および生活習慣との関連

藤谷倫子¹⁾，小原久未子¹⁾，間瀬知紀²⁾，宮脇千恵美³⁾，桃井克将⁴⁾，藤田裕規⁵⁾
○中村晴信¹⁾

1)神戸大学大学院，2)京都女子大学，3)鹿児島大学，4)徳島文理大学，5)近畿大学

A-3 発達障害のある小学生の子どもをもつ保護者を対象としたペアレント・トレーニングの実践

○古川恵美（畿央大学）

＜いじめ・安全・配慮＞ 10：36～11：12 座長 上田裕司（愛知東邦大学）

A-4 いじめ場面における傍観者の利益構造の検討—個人の性格特性は集団における行動選択の
決め手と成り得るか

○五十棲 計（滋賀大学大学院），大平雅子（滋賀大学）

A-5 小学校における安全・安心な居場所づくりに関する一考察～児童が求める学校生活空間の
記述調査から～

○八木利津子（桃山学院教育大学）

A-6 教員養成系大学の保健体育専攻学生における性的マイノリティに関する意識調査

○三上 純（京都教育大学大学院），井上文夫（京都教育大学）

＜発達障害・知的障害＞ 11：12～11：48 座長 古川恵美（畿央大学）

A-7 チームによる思春期発達障害生徒への支援 京都府立朱雀高等学校『ちょっと気になる
wakamono「そうだん」スペース』の報告

○二井弘泰（花園大学非常勤講師），飯野みづえ（京都府立朱雀高等学校）

A-8 早期からの知的障害のある児童生徒に対する性教育～自閉スペクトラム症に配慮した指導
の在り方～

○森本美紀（兵庫県立出石特別支援学校），小谷裕実（京都教育大学）

A-9 高等学校における特別支援教育の取組について

○長谷川法子（京都府教育庁指導部保健体育課）

B会場【F22 講義室】**<栄養・味覚> 10:00～10:36 座長 藤原 寛（京都府立医科大学）****B-1 塩分チェックシートによる中学生の食塩摂取量の簡易評価の有用性**

- 有馬美保^{1,2)}，宮井信行²⁾，寒川友起子²⁾，阿部香織^{1,2)}，戸村多郎¹⁾，内海みよ子²⁾
宮下和久³⁾，武田眞太郎³⁾，有田幹雄^{3,4)}
1) 関西医療大学，2) 和歌山県立医科大学大学院，3) 和歌山県立医科大学医学部
4) 角谷リハビリテーション病院

B-2 中学生における随時尿法で推定した食塩摂取量およびNa/K比と血圧の関連

- 長友奈央¹⁾，宮井信行¹⁾，寒川友起子¹⁾，早川博子¹⁾，内海みよ子¹⁾，宮下和久²⁾
武田眞太郎²⁾，有田幹雄^{2,3)}
1) 和歌山県立医科大学大学院，2) 和歌山県立医科大学医学部，3) 角谷リハビリテーション病院

B-3 大学生の味覚と生活習慣の関連

- 井上文夫（京都教育大学），三上純（京都教育大学大学院）

<自立支援> 10:36～11:12 座長 中村晴信（神戸大学大学院）**B-4 大学生の生活習慣改善の意識，行動及び支援方策に関するインタビュー調査**

- 衛藤佑喜，岡本 希，西岡伸紀（兵庫教育大学大学院）

B-5 大学生の愛着スタイルと自己および他者への意識の違いについて

- 竹端佑介，高山昌子，後和美朝（大阪国際大学）

B-6 大学新入生の学生生活への適応に関する一考察

- 高山昌子，竹端佑介，後和美朝（大阪国際大学）

<健康管理> 11:12～11:48 座長 辻井啓之（奈良教育大学）**B-7 生涯にわたって自己管理できる力をつけるための取組～大学・地域連携～**

- 東尾真紀子（関西女子短期大学）
大川尚子，藤岡弘季，倉恒弘彦（関西福祉科学大学）

B-8 保幼小連携に関する研究の動向 ～養護教諭の支援のあり方を考える～

- 三上眞美（大阪市立平野南小学校・大阪総合保育大学大学院）

B-9 中学生の健康評価と生活習慣との関連

- 藤原 寛（京都府立医科大学），井上文夫（京都教育大学）

C 会場【F26 講義室】

<保健教育 1> 10:00~10:36 座長 鬼頭英明（法政大学）

C-1 小学6年生における人型ロボット（Pepper）を活用した保健学習に関する研究

－喫煙・飲酒・薬物乱用の害と健康について－

○山田淳子¹⁾、安倍健太郎²⁾、谷川尚己²⁾、上田裕司³⁾

1)草津市立山田小学校、2)びわこ成蹊スポーツ大学、3)愛知東邦大学

C-2 中学3年生における人型ロボット（Pepper）を活用した保健学習に関する研究

－薬物乱用の害と健康について－

○安倍健太郎¹⁾、谷川尚己¹⁾、山田淳子²⁾、上田裕司³⁾

1)びわこ成蹊スポーツ大学、2)草津市立山田小学校、3)愛知東邦大学

C-3 大学教員と学校薬剤師が連携した小学校での保健学習

－喫煙・飲酒・薬物乱用の害と健康について－

○谷川尚己¹⁾、安倍健太郎¹⁾、上島 智²⁾、山田淳子³⁾、上田裕司⁴⁾

1)びわこ成蹊スポーツ大学、2)立命館大学、3)草津市立山田小学校、4)愛知東邦大学

<保健教育 2> 10:36~11:24 座長 谷川尚己（びわこ成蹊スポーツ大学）

C-4 学生の実践力育成のための食育活動とその成果について

○楠本久美子（四天王寺大学）

C-5 医薬品使用に関する薬剤師への相談－中学生に対する質問紙調査の結果より－

○砂金委久子、鍛冶佐知子、細川愛美、安田裕美、西岡伸紀（兵庫教育大学大学院）

C-6 チェコの学校保健の実態

○浅井千恵子（花園大学）

C-7 中学校における生と性の健康を目指した授業の質的評価

○吉田博子¹⁾、芦田優紀²⁾、浦田淳子³⁾、奥野めぐみ⁴⁾、片岡淑実⁵⁾、河口 好⁶⁾

安川 優⁷⁾、古山美穂⁸⁾

1)河内長野市立東中学校、2)河内長野市立美加の台中学校、3)河内長野市立加賀田中学校

4)河内長野市立美加の台小学校、5)河内長野市立千代田中学校、6)河内長野市立長野中学校

7)河内長野市立西中学校、8)大阪府立大学

ミニ勉強会【F16 講義室】 11:50~12:20

テーマ：学校における子どものけがとその対処法

講師：齊藤 晋先生（京都大学医学部附属病院 形成外科 講師）

※昼食を食べながらの聴講も可能です

参加受付等のご案内

◆受付時間・場所

平成30年6月30日(土) 9:30～

京都教育大学教育学部藤森キャンパスF棟1階入口

◆受付等について

① 学会正会員

- ・参加費 1,000 円をお支払いの上、名札と講演集をお受け取りください。
- ・平成30年度年会費未納の方は、年会費 3,000 円を学会本部事務局にお納めください。年会費の納入がない場合、参加費が当日会員と同じく 2,000 円となりますのでご注意ください。

② 当日会員

- ・参加費 2,000 円をお支払いの上、名札と講演集をお受け取りください。

③ 当日学生会員(参加費:大学院生 1,000 円, 学部学生 500 円)

- ・大学院生, 学部学生は学生証を提示ください。提示のない場合、当日会員扱いになります。

④ 新規入会希望者

- ・受付で入会申込用紙を受け取り、必要事項をご記入の上、年会費 3,000 円を学会本部事務局にお納めください。

⑤ 昼食

- ・平成30年6月15日(金)までにお弁当のお申込みされた方は、受付にて代金 1,000 円をお支払いの上、「弁当引換券」をお受け取りください。お弁当は 11:30～12:30 の間に F 棟 1 階 F15 講義室でお渡しします。

⑥ 懇親会(会費 4,000 円)

- ・準備の都合上、平成30年6月15日(金)までに、参加申込書を第65回近畿学校保健学会事務局(Eメール送付先: kinki65@kyokyo-u.ac.jp)にお送りください。
- ・会場: 大学生協食堂
- ・参加は事前申込制ですが、当日も若干名の方は受付いたします。
- ・懇親会に参加される方は、受付にて会費をお支払いください。

※ 名札には氏名・所属をご自身でご記入の上、会場では必ずご着用ください。

◆一般演題発表者の方へ

- ① 前演者の講演が始まると同時に、各会場前方の次演者席にご着席ください。
- ② 発表は、1 演題につき、発表 8 分、討論 4 分です。時間を厳守してください。
- ③ 学会当日は、発表用のプロジェクター、コンピュータ(PC)を準備いたします。
- ④ 発表用 PC は、Windows 10 で、アプリケーションは Microsoft PowerPoint 2016 になります。発表用ファイルは、平成30年6月22日(金)までに学会事務局にメールでお送りください。ただし、ファイル容量が 5MB を超える場合は、CD-R 等で郵送してください。
- ⑤ PC を持ち込んで発表される場合、プロジェクターの接続コネクタは D-sub15 ピンです。HDMI または iPad 等のタブレットには対応していません。PC モニター出力端子の形状をご確認のうえ、必要に応じて変換コネクタ(ケーブル)等をご用意ください。
- ⑥ 動画の使用は、原則としてお控えください(必要な場合は事務局で相談に応じますので、事前にご連絡ください)。
- ⑦ 資料を配布される場合は 70 部をご用意ください。

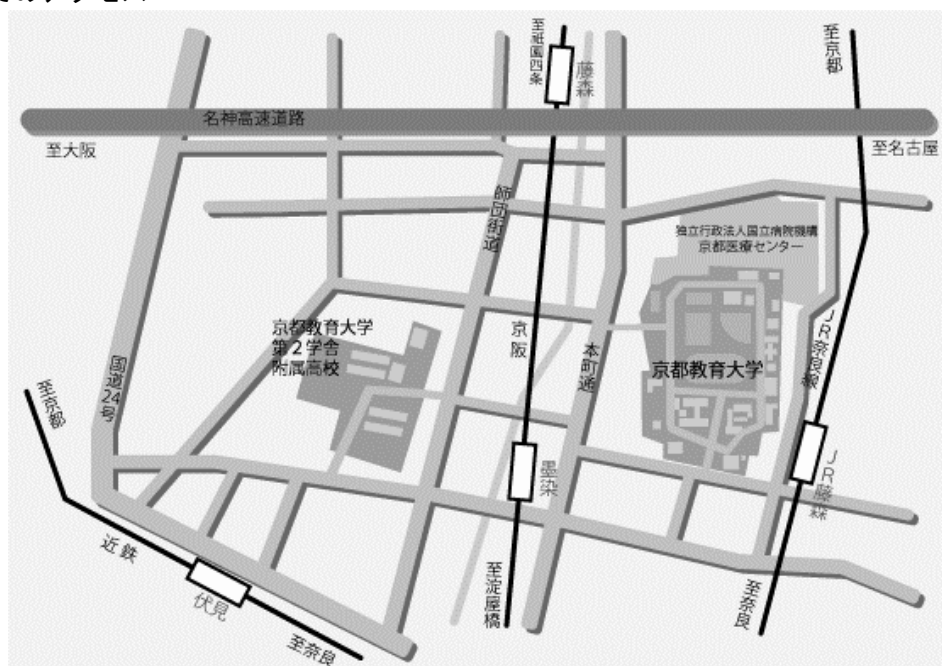
◆座長の先生方へ

- ① 前座長の登壇後、前方の次座長席にご着席ください。
- ② 受け持ち時間の進行は一任しますが、1題あたり12分以内でご進行いただきますようお願いいたします。
- ③ 慣例により、後日「学会通信」用の座長のまとめを年次学会事務局までご提出いただきますようお願いいたします。締切は平成30年7月27日(金)です。

◆その他

- ・学会開催時間内は、携帯電話などの通信機器類はマナーモードにするか電源をお切りください。
- ・会場は敷地内を含めて禁煙です。ご協力をお願いします。
- ・昼食および休憩は、F棟1階F13, F14, F15講義室をご利用ください。
- ・会場の周辺には、コンビニや飲食店がいくつかあります。
- ・手荷物預かり(クローク)のサービスは行いません。
- ・大学構内の駐車場は限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。ご利用いただく場合は、正門でお手続きの上ご入構ください。進入禁止箇所など、構内のルールに従ってください。

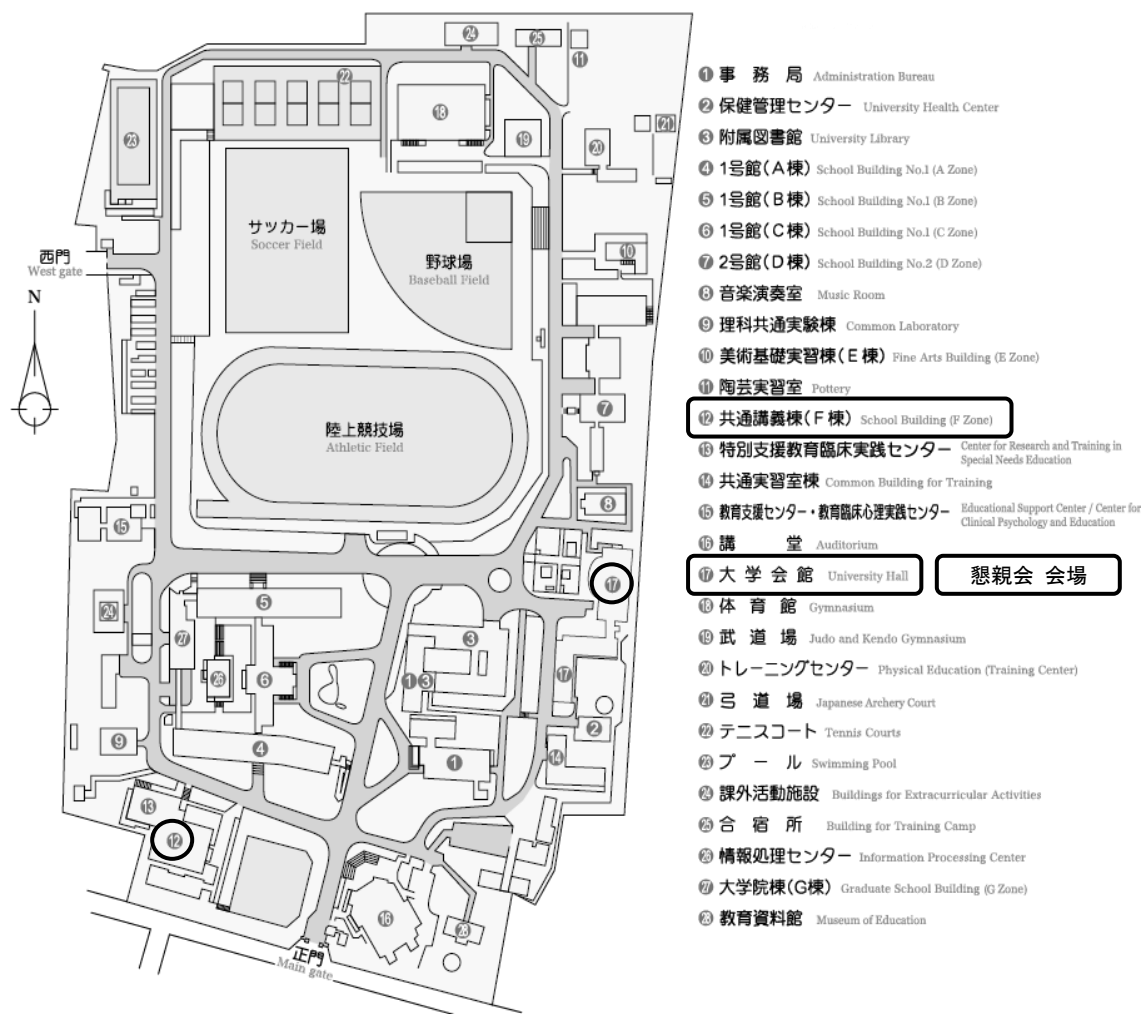
◆会場までのアクセス



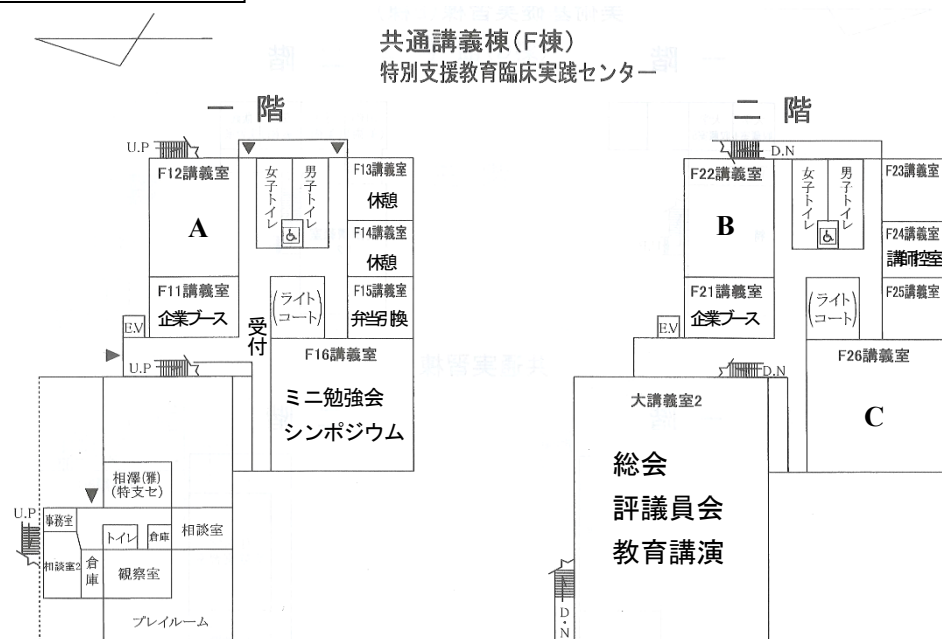
JR 奈良線：JR 藤森駅下車 徒歩約3分

京阪本線：墨染駅下車 徒歩約7分

会場案内



受付場所・会場 (F棟)



学会新企画

第6回 研究を論文にまとめる

和歌山県立医科大学 森岡 郁晴

1. 論文のまとめ方

研究は公表して完結する。研究者は自分の研究成果が、価値ある新しい情報をもたらす、あるいは、既存の知識を確認できたと判断したなら、論文としてまとめるべきである。

1) 論文をまとめる基本的な手順

論文は他者に読まれ、理解されてこそ意義がある。論文を読み易く、理解し易いものとするためには、以下の手順で書き進める。

(1) 論文の骨子を決める

まず主張したい点を中心に論文の骨子を決めるとともに、盛り込む情報を列挙する。この作業に十分な時間をかけておくと、執筆時の書き直しが少なくなり、結局は時間と労力を節約することになる。

この段階では、どのような情報を伝えたいか、それらの情報を読者に正しく、わかり易く伝えるためには、どのような筋道で書き進めるのが良いのかを考えながら作業を行う。

(2) 論文の構成に合わせて下書きをする

論文の構成は、議論の展開に沿って、緒言、対象と方法、結果、考察、結論、文献というような順序に配列する。このような議論の筋道に沿って、論文の骨子を配列する。盛り込む情報は、順序を考えて骨子に組み込んでいく。

(3) 図表を準備する

下書きと並行して図表も作成する。伝えたいことを最も効率的に示す図あるいは表を作成する。正確な数値や生データを示すときは表が、データの推移や比較を示すときは、図が効果的である。同じデータを図と表に、またはデータを本文に重複して示すことは避ける。

(4) 下書きを吟味する

下書きができれば数日間そのままにしておく。こうすると、客観的な視点で改めて読み直すことができる。不十分な個所を見つけやすくなる。

この間に、自分の研究成果をどのような人に読んで欲しいか、そのためにはどのような学術誌に投稿するのが良いかを検討し、論文の投稿先を決定する。投稿先が決定したら、投稿規定を熟読する。学術誌では、掲載する論文の構成や体裁、抄録の書き方や、文献の引用方法などを統一することになっているので、この様式を確認する。

論文の不十分な個所を修正しながら、投稿規定に沿って原稿を書き改める。論文の長さに制限がある場合も多いので、伝えたい情報の重み付けや取舍選択を行う。しかし、骨子がしっかりしていればその際の判断も容易であるし、必要な事項を書き落す心配も少ない。また、論文は自己完結していなくてはならない。論文の中に記述されている情報だけで読者が著者の議論をすべて理解できるかどうかを確認する。

完成した原稿を検討して、読者に伝えたい情報が的確に伝わるようになっているかを確認する。言いたいことを誤解なく伝えるためには、伝えたい情報の一つ一つを明確な短い文章にするとよい。不要な語句は、理解が困難にならない範囲で削ってしまう。冗長な表現やあいまいな表現、不正確な言い方を避けるようにする。書いた文章が二通りの意味にとられる恐れはないか、指示語が何を指しているかの的確に分かるかどうかを確認する。

吟味で重要なことは、様々な可能性の中から最善のものを選び抜くことである。この段階をうまく行うことで、最良の論文が生まれる。このような体験は大切であり、繰り返していくと良い論文を書く力が養われる。

原稿の仕上げは、読み易さの確認である。これは自分ではできない。自分で一応の完成と思う域に達したら、先輩や同僚、友人などに読んでもらって批評を聞くとよい。

文章の配列の仕方が論文の読み易さに大きな役割を果たすことを忘れてはならない。読者は論文の主題やそれに関連する事を著者のようには知らない。議論の繋がりに必要な部分を著者が省略したために、読者がそれをたどれなくなることも多い。その一方、著者の意図を伝えるの

に直接必要でない事項は省略する。本質的でない情報はかえって読者に混乱を招くことになる。文章の配列に落ちはないか、 unnecessary部分はないか、読者の立場から記述を綿密に吟味する。

(5) 原稿を清書する

最終原稿が仕上がったら、投稿規定に従っているかを確認し、投稿原稿を確定する。

2) 論文にまとめるときの留意事項

論文は一般的に表題、著者名、研究機関等と、抄録、キーワード、本文から構成され、本文は、基本的に緒言、対象と方法、結果、考察、結論、謝辞、文献、図表に分かれている。

(1) 表題

表題は論文の最初に置かれているが、実際には原稿を書き終えた後に決めることが多い。

表題を決める際には、次のような点に留意する。

- ・読者が研究内容を判断できるようにする。
- ・同じ題材の他の論文との違いがわかるようにする。
- ・特定分野の研究者だけに通ずるような省略語や記号は用いない。

(2) 抄録

抄録を読んで、その論文を読むか読まないかを決める読者も多く、また読者によっては抄録だけを読んで研究の要点を知ろうとする。また、抄録は情報提供サービスのためのデータベースにそのまま転載されるので重要な部分である。

抄録は論文を書き終えた後にその要点を洗い出して書く。抄録を書くにあたっては、次のような点に留意する。

- ・投稿規定により指定された字数制限のなかで、論文で述べた主な研究成果を簡潔明瞭にまとめ、それを読むだけで完結した情報が得られるようにする。
- ・まず論文の背景や目的を掲げ、対象について端的に記す。
- ・調査や実験等の具体的な方法を示し、結果と結論を示す。

- ・広く使われていない省略語や記号は、抄録のなかで定義を与えない限り使わない。

(3) キーワード

キーワードは文献検索のキーとして用いられるので、慎重に選定する。原則的にその専門分野で広く使用されている用語から自由に選ぶことができるが、既に決められた用語群の中から選ぶことも多い。キーワードを選ぶときには、次のような点に留意する。

- ・論文の内容を的確に表現する語句を選ぶ。多くの場合は、表題や抄録の中に含まれている重要な語句の中から選ぶ。
- ・論文の全体の内容がよく推測できるように素材、特性、手法などいろいろな側面から選ぶ。
- ・複合語や句を避け、省略語や記号は慣用されているものに限る。

(4) 緒言

この研究を計画するに到った動機は何か、本研究がなぜ必要であるか、研究の目的は何であるのか、これまでにこの方面の研究はどこまで進んでいるか、従来の研究の問題点は何か(ただし自分の研究と関係することに限る)などについて、文献を引用して要領よく述べる。ダラダラ長く書くより短い方がインパクトは強い。

(5) 対象と方法

記載どおりにすると同じ研究ができるように、なるべく詳細に述べる。分析方法や統計処理についても正しく記載する。人を対象とした場合は行った倫理的配慮について必ず述べる。

(6) 結果

研究で得られた結果のみを示す。図や表を効率よく使って、本文中の数字の羅列を避けるとともに、読者が容易に理解できるよう心がける。論文で訴えたいことは細かなところまでしっかりと書く。図表には、単位を必ず入れる。

(7) 考察

結果の意義付けや、どこがこれまでの研究成果と異なるのか、どのような新しい知見が得られたのかを明確に述べる。一般的に、研究のメインの結果、結果についての考察(結果で示した順

序で)、研究の意義や今後の活用、限界の順に書いていく。

自分のデータを示して考察する場合には、どういう誤差があり得るか、精度はどれくらいかを記載する。他の研究者の仕事の結果や考え方を引用する場合には、自分の仕事の結果や考え方とはっきり区別できるように書き、出典を明らかにしなければならない。他の研究者の仕事の批評する必要がある場合には、例えば「誰々の仕事だから」というように、個人の評価に繋がる書き方をしてはいけない。批評は、実験の方法、混入したと思われる誤差のように、客観的な面だけに向けるようする。

考察は、論文全体の 1/3 程度にするのが適当で、あまり長く書かずに焦点を絞り、明確に述べる方が良い。

(8) 結論

結論では、主張したい重要な点を強調する。また、対象者や方法などから条件の制限がある場合は、どういう条件のもとで成り立つものかをきちんと書かなければならない。

結論を書く際に特に注意することは、結論が、この論文で示した結果から導かれるのか、緒言で予告したことに対して矛盾していないかの二点である。

(9) 謝辞

研究の実施にあたって協力を得たり、論文の作成にあたって助言を得たりした人に対して謝辞を述べる。また、研究費の助成を受けた場合には、その旨を記載することを義務づけている学術誌もある。

(10) 文献

引用する文献は、論文の内容に直接関係するものだけに限定し、それを洩れなく引用する。引用する文献はできるだけ新しいもので、一流誌の文献を引用した方がよい。記載の仕方は学術誌によって異なるので、投稿規定に従って書く。

(11) 図表

原則として図には、タイトルと説明文を付ける。表には、タイトルのみで説明文は付けない。いずれのタイトルも 1 行以内で簡潔なものにする。

また、表には縦線を使わないことが近年主流である。

(12) 利益相反 (COI)

大学等の研究機関と企業や業者等の産業界とが連携した研究が、近年盛んになってきたことで、個人が取得する利益と、研究機関等で行う公正な研究における責任とが相反する状態が起こってきた。このような状態を「利益相反 (conflict of interest, COI)」と呼ぶ。

研究が産業界からの資金で実施される場合、その研究の公正性、透明性を示すため、利益相反についての記載を、学術誌によっては求められる場合がある。

2. 論文の投稿時の注意

論文の投稿時は、投稿規定にしたがって原稿を揃える。原稿の文字の大きさや余白、1 行あたりの文字数、原稿の字数制限などをチェックする。原稿には、ページ数を付ける。

一般的に原稿は、タイトルページ、抄録、本文、図、表の順に用意する。タイトルページには、必要な情報(タイトル、著者、所属機関、ランニングタイトル、著者の連絡先、抄録と本文の文字数、図表の枚数など)を記載することになっているので、投稿規定を確認する。

論文原稿とは別にカバーレターを添える。カバーレターには、投稿する学術誌の名前、論文のタイトル、著者名、論文の分類(総説、原著、報告など)などを記載する。また、投稿規定によっては 2 重投稿(同一内容の論文を別の学術誌に投稿すること)でないこと、あるいは著者それぞれの研究への関与の程度を記載することを義務づけているものもある。

3. 査読のシステムと査読結果への対応

これまでの論文を参考に自分の研究成果を論文にまとめて学術誌に投稿しても、それがそのまま掲載されることはまずない。投稿された論文が学術誌に掲載されるまでには、査読というシステムがあり、これを通過しなければならない。学術誌へ投稿する際には、このシステムに

ついて理解し、査読結果に適切に対応する。

1) 査読のシステム

査読とは、投稿された論文が学術誌に掲載するのにふさわしい内容であり、ふさわしい水準に達しているかどうかを、編集委員会の責任でチェックし、不十分な点があれば著者に修正を求めるシステムである。

論文が学術誌に投稿されると、査読を担当する査読者が選任される。一般に、投稿論文の内容と同じ分野を専門とする者2名が選任される。複数の査読者が独立して査読することによって、意見の偏りや見落としを避け、査読の客観性を高めることができる。なお、査読者の氏名は著者には知らされない。

査読者には、どのように修正すれば論文の質が学術誌にふさわしい水準にまで高まるのか、という観点で建設的な改善策を著者に示す責任がある。査読者は、論文の問題点を指摘し、修正要求する点を列挙する。細かな指摘は投稿原稿に直接書き込むこともある。

査読結果は編集委員長の下に集められ、編集委員会の確認を受ける。2名の意見に大きな隔たりがある場合は編集委員長がとりまとめを行うが、通常は2名の意見がそのまま著者に返送される。ただし、投稿論文の質があまりにも低く、何度か査読を繰り返しても改善される見込みがないと判断された場合などは、編集委員会の判断として不採択とされることがある。

査読者の意見に対して、著者はコメントしながら、論文を定められた期日までに修正して、改めて投稿する。投稿論文が学術誌に掲載するに足る修正が認められたと2名の査読者が判断すれば、採択可の意見があげられる。必要ならば、論文が完成された水準に達したと判断されるまで、査読—修正—再投稿の手順が何度も繰り返される。

最終的に編集委員会によって採択が決定され、査読は完了となる。この段階で著者には採択の通知が送付される。

2) 査読結果への対応

論文を投稿すると、約1週間後に論文を受け取った旨の連絡が届く。そして、約8～12週後に査読結果が送られてくる。査読結果は、編集委員長からの審査結果と、複数(通常2名)の査読者によるコメントからなる。

査読結果を受け取った著者は、査読コメントや原稿中の書き込みをよく読み、何を指摘されているのか、理解する。独りよがりの解釈でなく、身近にいる投稿経験が豊富な人に査読コメントを見てもらうのも良い。そのような人の意見を聞くことで、査読コメントにどう対応したらよいか、最善策が見つかるかもしれない。

論文に修正が求められた場合、査読コメントに沿って論文を修正する。そして、修正した論文を編集事務局に送付することになるが、そのときは、修正した原稿とともに、それぞれの査読者に査読コメントに対する回答を添付しなければならない。

論文の修正の仕方や回答書の書き方として、次のような点に留意する。

一つ一つのコメントに対して対応する。基本的には査読者の修正要求には応じるべきである。査読者は、どのように修正すれば論文が採択に近づくのかという観点で査読を行っているので、厳しい指摘があっても、論文の質を高めるためのアドバイスだと受け止める。

査読者の指摘に納得がいかない場合は、必ずしも指示通りに修正する必要はなく、反論することは許されている。著者と査読者の間に学術的主張に相違がある場合、査読者が誤解・曲解していると感じられる場合、コメントで述べられているポイントがすでに記載されている場合、そのような場合は回答書の中でその旨を述べるようにする。必要な場合には文献を引用し、主張を裏づけるために必要な補足的(あるいは未発表)なデータを付加する。しかし、論文の採否の決定は編集委員会の権限であり、不採択となったからといって、そのことに異議を申し立てることはできない。その場合は近い分野の他の学術誌に投稿しなせばよい。

査読コメントに従って、的確かつ適切に論文を修正する。修正原稿は、査読コメントに基づいて変更した場所がわかるように、下線を引いたり、ハイライトしたりするようにする。

回答書は、次のような内容で書くのが普通である。

(1) 査読者への礼

冒頭には、査読者への礼を記載する。査読者は多忙な中論文を読み、意見を書いている。自分の論文のために時間を割き、アドバイスをくれたことに対して一言感謝の意を表す。

(2) 指摘箇所への回答

修正指示の一つ一つを引用し、それぞれについて具体的にどう修正したかを記載する。全般的な指摘に対しては、どのような方針で修正したのかを要約する。個別の詳細な指摘には、具体的にどこをどう修正したのかを記す。字句の修正など細かな指摘が多い場合は、それらを一括して「ご指摘の通り書き改めました。」としても良い。全体として、指摘箇所とそれに対する修正内容がもれなく記述されるように留意する。

原稿を指示通り修正してあれば、回答書をつけることは二度手間のように思われるかもしれない。しかし、これによって査読者の指摘を著者が正しく理解したかを査読者が確認することができ、二度目の査読がスムーズに運ぶ。また、前述のように、修正指示に応じられない場合は、ここでその理由を述べなければならない。

(3) むすびの挨拶

一言でよいので、締めくくりの言葉を記しておく。

3) 修正原稿の投稿以降

修正原稿と、個々の査読者に宛てた回答書を取りまとめて、指定された期限内に再投稿する。査読結果を受け取ってから長い期間が経過すると、その論文は自動的に無効となり、新たに投稿しないといけない場合が多い。やむを得ず遅れる場合は必ず事務局に連絡する。

査読者との数回のやりとりの末、論文が受理されたとの通知が届く。研究成果が認められた

瞬間である。

論文が最終的に受理されると、その原稿は出版社に送られ、通常約1か月後にグラ刷りが送られてくる。この形で研究成果が公表されることになる。

論文を投稿した経験の少ない著者にとって、査読は厳しい、高い壁のように感じられるだろう。著者の中には査読者の厳しい指摘を受け、途中で諦めて辞退してしまう人もいる。しかし、査読を経ることで論文を書く力が身につくことは忘れないようにしてほしい。

おわりに

研究を論文にまとめる際の注意事項を書かせていただきました。しかし、執筆者の私に分かりやすい論文を書いているかと尋ねられると、そんなことはありません。投稿した論文で査読者からの指摘を受け、反省することが多々あります。しかし、これは恥ずかしいことだと考えていません。得られた成果を論文で分かりやすく発表することは難しいことであり、だからこそ、価値あるものだと考えています。

反対に私自身が査読者として、投稿された論文の分かりにくい点をコメントさせていただく機会もあります。雑誌の査読はピアレビュー(peer review)といい、相互に批判しあい、より良い論文の掲載を目指しています。

研究成果を論文にまとめることは、その過程が自分自身を向上させてくれると、私は考えています。投稿中の人、これから投稿しようとする人も、この原稿を参考にされ、より良い論文を完成させて、査読に適切に対応し、論文の掲載に向けてチャレンジしてもらいたいと思います。この原稿を読んでいるあなたも、このような道を歩むことが自分磨きにつながると、私は確信しています。

平成30年度近畿学校保健学会評議員会・総会 議題

日 時： 平成30年6月30日（土） 13：00～14：00

場 所： 京都教育大学 大講義室（F棟2階）

- 議 題：
1. 平成29年度事業報告
 2. 平成29年度決算報告及び会計監査報告
 3. 平成30年度予算案
 4. 次期学会開催地及び会長
 5. その他

平成29年度

第3回近畿学校保健学会幹事会議事録

日時：平成30年2月4日（日）14：00～16：00

場所：大阪教育大学天王寺キャンパス
学園ホール大会議室

出席者：【幹事長】白石

【常任幹事】大川，笠次，鬼頭，後和

【幹事】（滋賀）板持，高野

（京都）井上，上田，藤原

（大阪）楠本，古角

（兵庫）中村

（奈良）高田，辻井

（和歌山）松本，宮下

（計17名敬称略・順不同）

欠席者：谷川，藤居，森，松永，吉岡，川畑，西岡，
春木，森脇，森岡

（計10名敬称略・順不同）

議 事：

1. 学会奨励賞について（継続審議）

白石幹事長より，表彰される演題数や研究内容の偏り，座長の関わり方の問題点等の継続審議になった経緯について説明され，審議の結果，選考委員会の構成，表彰演題数，表彰式について修正を加え，次回幹事会で奨励賞選考規程の改訂案を提案することとなった。

2. 第65回近畿学校保健学会について

年次学会長の小谷裕実氏に代わり井上代表幹事（京都）より学会通信149号に掲載予定の開催要項に沿って説明され，了承された。

3. 特別企画の執筆者について

白石幹事長より，特別企画は次回の第6回を最終回とし，テーマは「研究を論文にまとめる」，執筆者を森岡幹事とする，さらに第1回から第6回を冊子にまとめ，学会員に配布することが提案され，了承された。

4. その他

特になかった。

報 告：

1. 第6回セミナーについて

平成29年12月23日に開催された第6回セミナーについて，講師を担当した笠次常任幹事から，参加者は現職の養護教諭を含めた16名で，テーマが「運動器検診について－現場が抱える課題とその対応策を考える－」であったこともあり，活発な議論がされたことが報告された。

2. 学会通信（No.149）の発刊について

後和常任幹事から資料をもとに149号の概要が説明され，内容は主に第65回近畿学校保健学会開催要項となるが，その他に第6回セミナー報告等を含めて12頁にわたることが説明された。

3. その他

特になかった。

関連学会開催日程

◇日本健康教育学会（第27回学術大会）

会長：西岡伸紀（兵庫教育大学）

テーマ：健康教育，ヘルスプロモーションを“見える化”する社会的意義
ープロセスはいかにして結果に至るのか？ー

期日：平成30年7月7日（土）～8日（日）

会場：姫路市市民会館（〒670-0015 姫路市総社本町112）

最寄り駅 JR 姫路駅より徒歩15分

* 詳細については第27回日本健康教育学会学術集会のホームページ

（<http://www.knt.co.jp/ec/2018/27nkkg/index.html>）でご確認ください。

◇日本養護教諭教育学会（第26回学術集会）

会長：津島ひろ江（関西福祉大学）

テーマ：連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究

期日：平成30年9月29日（土）～30日（日）

会場：関西福祉大学（〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3）

最寄り駅 JR 播州赤穂駅よりスクールバス運行

* 詳細については日本養護教諭教育学会のホームページ（<http://yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp/wp/>）
でご確認ください。◇日本学校保健学会（第65回学術大会）

会長：住田 実（大分大学）

テーマ：子どもの生活認識に寄り添う保健教育と学校保健

期日：平成30年11月30日（金）～12月2日（日）

会場：ホルトホール大分（〒870-0839 大分県大分市金池南一丁目5番1号）

最寄り駅 JR 大分駅より徒歩2分

* 詳細については日本学校保健学会のホームページ（<http://jash.umin.jp/annual/>）で
ご確認ください。

編集後記

今年度も本号にて年次学会のプログラムが掲載されました。第65回年次学会は6月30日（土）に京都教育大学で開催され、学会長は小谷裕実教授が務められます。一般演題発表も25演題が集まり、種々のテーマで活発な議論が期待されますので、多くの方の参加をお待ちしています。

ところで、昨年末以来、大相撲、女子レスリング、大学アメリカンフットボールと、スポーツ界の指導的立場の人間の言動が世間を賑わしています。いずれも身体接触を伴うスポーツであり、その特性なのか、あるいは日本のスポーツ界に根強く存在する問題なのかは分りませんが、いずれにしても非常に残念な出来事でした。今後は文部科学省やスポーツ庁、各競技団体はスポーツ指導者のパワハラに対するガイドラインを早急に策定し、他のスポーツを含めてこのような問題が二度と起こらないようにして頂きたいと切に願います。

（常任幹事 後和美朝）